

科目名 【英】	経営マネジメント Business Management			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	前期	曜日	土曜日	時限	3, 4, 5

担当教員	上田 育功・内藤 睦	実務者経験	(上田) 2014年5月～ 経営コンサルティング事務所所属 中小企業診断士として、経営コンサルティング業を営む
------	------------	-------	--

学習内容	卒業を控えた学生が、整骨院等でキャリアを積み、 将来独立開業・整骨院での院長などとして活躍する際に役立つような内容として、 「キャリアプランニング」「起業」「リスクマネジメント」について学ぶ。
到達目標	社会に出てからの経営の手法を学び、将来独立、整骨院等の経営をするときの基礎知識を習得する

準備学習 時間外学習	次回内容関連する資料を読む、課題に取り組むなどの予習・復習が必要。
使用教材	各科目に合わせたレジュメを使用する。
留意点 備考	本講義は、グループワークを交えた授業を実施するため、毎回積極的な参加が求められる。

成績評価	復習テスト50%+最終日のグループ発表50%で評価する。
------	------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	【内藤】 ・キャリアプランニング	・将来を想像し、自分らしい仕事について考える 自分の棚卸しをし、キャリアプランを立てる。 将来のことを真剣に考えることで計画の重要性に気づき、今後のキャリアイメージやプランニングを考える。
2	【上田】 ・経営とは	・成功店舗と失敗店舗の違いについて 普段、通り道にある店舗・普段、自分がよく使っている店舗について、経営者の目で分析することの楽しさを知る。
3	【上田】 ・店舗管理の基礎知識	・簡易テスト：失敗事例について、改善可能性の検討 前回の授業と併せて、店舗管理のセオリーを知ることで、日々の生活の中で経営について考えるクセを身に付ける。
4	【上田】 ・消費者の購買プロセスについて	・簡易テスト：スーパーの商品配置（何をどこに置くのが効率的か） 自分が購買にいたるプロセスを経営科学の観点から理解する。
5	【上田】 ・独立、開業する際に必要な知識	・簡易テスト：購買プロセスの復習テスト 整骨院の他、他業種の開業についても少し学び、世の中の会社・お店がどのようにできているかを合わせて知る。
6	【上田】 ・利益をあげるといこと（収益計算と人材雇用について）	・簡易テスト：開業に必要な知識についての復習テスト 売上・費用・利益の関係について理解する。 事業計画書の概要について大筋を理解する。
7	【上田】 ・全体テスト	・経済人として、心得のおさらい 具体的な目標設定
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目名 【英】	関係法規 Legal Issues in medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	1.2

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を学ぶ。
到達目標	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を説明することができ、適正な柔道整復師業務を行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	関係法規の予習が必要。
使用教材	教科書『関係法規』、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末試験100%で評価する。
------	----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		法の体系	法の体系について説明することができる。
2		患者の権利	患者の権利について説明することができる。
3		医療過誤とリスクマネジメント	医療過誤とリスクマネジメントについて説明することができる。
4		柔道整復師法の目的・定義	柔道整復師法の目的・定義について説明することができる。
5		柔道整復師免許	柔道整復師免許について説明することができる。
6		柔道整復師名簿	柔道整復師名簿について説明することができる。
7		柔道整復師免許証	柔道整復師免許証について説明することができる。
8		合格証書、合格証明書	合格証書、合格証明書について説明することができる。
9		業務範囲と禁止	業務範囲と禁止について説明することができる。
10		施術所	施術所について説明することができる。
11		広告、罰則	広告、罰則について説明することができる。
12		医療法	医療法について説明することができる。
13		指定登録機関、指定試験機関	指定登録機関、指定試験機関について説明することができる。
14		社会福祉関係法規	社会福祉関係法規について説明することができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔道 4 Judo 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3.4

担当教員	中村 義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。
------	-------	-------	---

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、形（足技）を習得する。
到達目標	柔道を通して、技だけではなく礼儀作法に重点を置き社会人基礎力を習得する。 形（足技）が出来るようになる。

準備学習 時間外学習	1.2年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備 考	準備運動としてストレッチや受身をとり外傷を予防する。

成績評価	実技評価100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	形（腰技）1	礼法、受身、浮腰を行うことができる。	
2	形（腰技）2	礼法、受身、払腰（右）を行うことができる。	
3	形（腰技）3	礼法、受身、払腰（左）を行うことができる。	
4	形（腰技）4	礼法、受身、釣込腰（右）を行うことができる。	
5	形（腰技）5	礼法、受身、釣込腰（左）を行うことができる。	
6	形（腰技）6	腰技を左投、右投を行うことができる。	
7	形（足技）1	礼法、受身、送り足払い（右）を行うことができる。	
8	形（足技）2	礼法、受身、送り足払い（左）を行うことができる。	
9	形（足技）3	礼法、受身、支え釣り込み足（右）を行うことができる。	
10	形（足技）4	礼法、受身、支え釣り込み足（左）を行うことができる。	
11	形（足技）5	礼法、受身、内股（右）を行うことができる。	
12	形（足技）6	礼法、受身、内股（左）を行うことができる。	
13	形（足技）7	足技を左投、右投を行うことができる。	
14	復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。	
15	復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。	

科目名 【英】	柔道概論 Introduction of Judo			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水	時 限	1, 2

担当教員	林 宏明	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	------	-------	----------------------------------

学習内容	1年生で履修した柔道整復学総論の国家試験対策としての復習を行っていく。
到達目標	柔道整復学総論と各論を結びつかせ引き出すことができ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	柔整総論 1	骨損傷（分類、症状） 分類・症状の落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
2	柔整総論 2	骨損傷（合併症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
3	柔整総論 3	骨損傷（続発症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
4	柔整総論 4	骨損傷（後遺症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
5	柔整総論 5	骨損傷（小児・高齢者骨折の特徴、癒合日数、治癒経過、予後、影響因子） 年齢での治癒の違いと、影響因子を理解し、過去問題を解くことができる。
6	柔整総論 6	関節損傷（構造、分類、関節構成組織損傷） 関節構成組織を見直し、過去問題を解くことができる。
7	柔整総論 7	脱臼（分類、症状、合併症、整復障害、予後） 分類・症状などの落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
8	柔整総論 8	筋損傷と腱損傷 筋・腱損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
9	柔整総論 9	末梢神経損傷、血管系・リンパ系損傷、皮膚損傷 神経・脈管損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
10	柔整総論 10	治療法（固定法、後療法） 固定法と後療法のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
11	柔整総論 11	評価、治療法（整復法、初期処置） 整復法と初期処置のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
12	柔整実技総論 1	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（損傷の診察、鑑別診断、合併症の有無、説明と同意） 診察の流れを把握することができる。
13	柔整実技総論 2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（徒手整復、固定法、後療法、治癒の判定、予後） 整復から治癒に至るまでの流れを把握することができる。
14	柔整実技総論 3	肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方 鑑別を行い、各疾患の導き出すことができる。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	後療法学 Arter Treatment of injury			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3 年	学 期	前期	曜 日		時 限	

担当教員	岩崎英明 井上亜久吏 水谷遼香	実務者経験	岩崎：1997年より養成施設の附属整骨院で実務経験を積む 井上：接骨院で5年実務経験を積む 水谷：整骨院付属のデイサービスで機能訓練業務に従事
------	-----------------------	-------	---

学習内容	外傷の経過および治療判断方法を学び、固定除去後の治療法を理解する。 また、臨床に診やすい軟部組織損傷の治療法を学ぶ。
到達目標	学んだことを臨床実習、卒業後の臨床で役立てるよう、説明、実施することができるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	柔道整復学理論編第6版、柔道整復学実技編第2版
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	包帯法について	包帯法の総論について理解し、説明できるようになる。
2	上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷、インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱損傷）
3	上肢疾患	末梢神経障害（正中神経、尺骨神経、橈骨神経）
4	上肢疾患	手指の軟損
5	下肢疾患	膝関節部軟損（ACL・PCL、MM・LM）
6	下肢疾患	大腿部軟損（大腿四頭筋損傷、ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷、アキレス腱損傷）
7	8/21 下肢疾患	股関節脱臼
8	9/4 上肢疾患	橈骨手根管折脱臼、手根骨脱臼
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

t

科目名 【英】	外傷予防理論実習 2 injury prevention conditioning practices 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	山本 将史	実務者経験	平成14年4月より鍼灸整骨院開院 院長として勤務する
------	-------	-------	----------------------------

学習内容	運動生理学の観点から競技者の身体的変化を理解し、予防やトレーニングの基礎知識を習得、また実技により体得する
到達目標	運動生理学の基礎、ストレッチ、トレーニング、競技者の予防について理解を深める

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	競技者の外傷予防
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験 100点満点
------	-------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		運動生理学 1	オリエンテーション 運動生理学とは
2		運動生理学 2	レジスタンストレーニング 持久カトレーニング
3		運動生理学 3	エネルギー代謝 ATP-CP系 解糖系 TCA回路
4		運動生理学 4	筋繊維タイプ アイソメトリックコントラクション アイソトニックコントラクション
5		運動生理学 5	呼吸中枢 最大換気量 最大酸素摂取量 AT LT 酸素借
6		運動生理学 6	循環 競技者の血圧
7		運動生理学 7	運動とホルモン 性ホルモン
8		運動生理学 8	競技者の運動生理学的特徴 有酸素作業能力 間欠的作業能力
9		外傷予防概論 1	外傷の発生要因 内的要因 外的要因
10		外傷予防概論 2	外傷の予防対策
11		外傷予防実技 1	タイトネステスト 関節弛緩性テスト
12		外傷予防実技 1	アイシング ストレッチング
13		外傷予防実技 1	スポーツマッサージ スポーツテーピング
14		外傷予防実技 1	体幹強化トレーニング 下肢安定性向上トレーニング 肩甲帯トレーニングなど
15		総復習	理論実技の総復習

科目名 【英】	柔整外傷学実習 1 Judo Therapy and Traumatology Practice1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月曜日	時 限	3.4.5

担当教員	西尾 仁孝	実務者経験	平成3年4月から鍼灸整骨院を開業し、平成16年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。
------	-------	-------	---

学習内容	肋骨骨折、ボクサー骨折、PIP関節脱臼、下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂について理論、臨床知識、固定法を学ぶ。
到達目標	卒業実技試験及び認定実技試験科目の実技の習得目指しながら患者の身になり固定の実技力を高め臨床応用を身に着ける事を目指す。

準備学習 時間外学習	柔道整復学理論編、実技編の教科書で学習内容項目を予習する事が必要。
使用教材	固定法マニュアル
留意点 備 考	包帯、枕子など固定材料の準備物忘れに留意する。副教材として柔道整復学理論編、実技編の教科書を持参して受講する事が望ましい。

成績評価	実技審査100%にて評価する。
------	-----------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	肋骨骨折の固定	肋骨骨折の理論を復習し固定出来るようになる。
2	肋骨骨折の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
3	ボクサー骨折の固定	ボクサー骨折の理論を復習し固定出来るようになる。
4	ボクサー骨折の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
5	PIP関節脱臼の固定	PIP関節脱臼の理論を復習し固定出来るようになる。
6	PIP関節脱臼の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
7	下腿骨骨幹部骨折の固定	下腿骨骨幹部骨折の理論を復習し固定出来るようになる。
8	下腿骨骨幹部骨折の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
9	アキレス腱断裂の固定	アキレス腱断裂の理論を復習し固定出来るようになる。
10	アキレス腱断裂の固定	タイムを計り愛護的かつスムーズに固定出来るようになる。
11	総復習	卒業実技試験のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
12	肋骨骨折の固定の復習	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
13	ボクサー骨折、PIP関節脱臼の固定の復習	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
14	下腿骨骨幹部骨折の固定	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
15	アキレス腱断裂の固定の復習	認定実技審査のレベルまで深く理解してより臨床にそった固定が出来るようになる。
16	総復習	認定実技合格レベルを目指しながら助手を上手く指導し固定をスムーズに施術し臨床レベルで患者の状態を完全にコントロールする事が出来るようになる。

科目名 【英】	柔整外傷学実習 2 Judo Therapy and Traumatology Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	水	時 限	3.4

担当教員	高田 昌辰	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔整理論、柔整実技（鎖骨骨折上腕骨骨折、コーレス骨折、足関節損傷）
到達目標	基本的な整復法、固定法、後療法を理解する

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	5/13	鎖骨骨折	鎖骨骨折の整復、固定
2	5/20	鎖骨骨折	鎖骨骨折の整復、固定
3	5/27	上腕骨骨折	上腕骨近位端骨折の分類と外科頸骨折
4	6/3	上腕骨骨折	上腕骨外科頸骨折外転型と内転型の整復、固定、後療法
5	6/10	上腕骨骨折	上腕骨骨幹部骨折の整復、固定、後療法
6	6/17	コーレス骨折	コーレス骨折の整復、固定、後療法
7	6/24	コーレス骨折	コーレス骨折の整復、固定、後療法
8	7/1	足関節損傷	足関節外側部損傷についての診察及び固定
9	7/8	鎖骨骨折	鎖骨骨折の整復実技
10	7/15	鎖骨骨折	鎖骨骨折の固定実技
11	7/22	コーレス骨折	コーレス骨折の整復実技
12	7/29	コーレス骨折	コーレス骨折の固定実技
13	8/1	上腕骨骨折	上腕骨骨折の固定実技
14		足関節損傷	足関節損傷の固定実技
15		整復、固定	実技の総復習

科目名 【英】	柔整外傷学実習 3 Judo Therapy and Traumatology Practice3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3年	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	3.4

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	脱臼範囲の国家試験対策
到達目標	脱臼範囲の国家試験範囲を習得する

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書
留意点 備考	

成績評価	実技100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔整外傷学実習 3	学習内容の注意点
2		鎖骨脱臼1	鎖骨脱臼のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
3		鎖骨脱臼2	鎖骨脱臼のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
4		鎖骨脱臼3	鎖骨脱臼のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
5		肩関節脱臼1	肩関節脱臼のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
6		肩関節脱臼2	肩関節脱臼のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
7		肩関節脱臼3	肩関節脱臼のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
8		肩関節脱臼4	肩関節脱臼のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
9		肘関節脱臼1	肘関節脱臼のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
10		肘関節脱臼2	肘関節脱臼のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
11		膝関節側副靭帯損傷 1	膝関節側副靭帯損傷のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
12		膝関節側副靭帯損傷 2	膝関節側副靭帯損傷のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
13		足関節側副靭帯損傷 1	足関節側副靭帯損傷のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
14		足関節側副靭帯損傷 2	足関節側副靭帯損傷のメカニズムを理解し問題を解けるように学習する
15		復習	総復習

科目名 【英】	柔整外傷学実習 4 Judo Therapy and Traumatology Practice			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3.4

担当教員	赤井 宝	実務者経験	2015年4月～2020年1月まで整形外科に所属し、機能回復訓練および整復、固定を行う。
------	------	-------	--

学習内容	身体運動の表し方や身体の構造、および力学、反射、発達について学ぶ。
到達目標	身体運動に関する用語とその内容を把握し、身体運動、反射や発達について、理論的に説明ができるようになる。柔道整復師の国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	2年次に習った運動学の復習、過去の国家試験問題を利用しての自身の苦手分野の把握が必要。
使用教材	教科書『運動学』（医歯薬出版）、配布プリント
留意点 備 考	4回目、6回目、9回目の授業開始時に小テストを実施する。

成績評価	期末試験80%+小テスト10%+平常点10%で評価する。
------	------------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		運動の表し方	身体運動に関わる用語について説明できる。
2		身体運動と力学	力学で用いられる用語や構造、法則について説明できる。
3		運動器・神経の構造と機能	運動器や神経の構造と機能について説明できる。
4		運動感覚、反射と随意運動	運動感覚や反射、随意運動について説明できる。
5		姿勢	重心や姿勢について説明できる。
6		歩行	歩行周期や筋の作用、異常歩行について説明できる。
7		運動発達	運動発達について説明できる。
8		運動学習	運動学習について説明できる。
9		過去の国試問題を利用した復習	授業で得た知識を応用して、国試問題を解くことができる。
10		過去の国試問題を利用した復習	同上（学生よりリクエストがあれば、特定の範囲の復習や解説を行う）
11			
12			
13			
14			
15			

科目名 【英】	柔整外傷学実習 5 Judo Therapy and Traumatology Practice5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	1
学 年	3	学 期	前期	曜 日	火曜日	時 限	3, 4, 5

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院にて実務経験を積む
------	------	-------	----------------------------------

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備考	

成績評価	学期末試験100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		生理解剖学総論	体液の分布、組成および神経系の基本構造について復習し理解を深める。
2		神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。
3		神経系	神経の働きの基本について復習する。
4		神経系	神経系の機能と役割について復習する。
5		神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。
6		感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。
7		感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。
8		感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。
9		感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。
10		筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造について理解を深める。
11		筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。
12		筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。
13		生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習する。
14		体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。
15		体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。
16			

科目名 【英】	臨床実習4 Clinical Training			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	45	単位	1
学年	3	学期	前期	曜日	金曜日	時限	3.4
担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。				
学習内容	附属整骨院にて臨床実習を行う。						
到達目標	臨床の場において実際に活用できるレベルに到達する。 軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し適切な徒手検査を行い、疾病を鑑別することができる。						
準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。						
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント						
留意点 備考	患者の有無によりシミュレーションを行う。						
成績評価	各実習時間内の評価						
授業計画 【テーマ・内容・目標】							
1	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 ガイダンス					
2	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 腱板損傷					
3	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 上腕二頭筋長頭腱損傷					
4	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 十字靭帯損傷					
5	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 側副靭帯損傷					
6	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 半月板損傷					
7	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 肉離れ（大腿四頭筋）					
8	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 肉離れ（ハムストリングス）					
9	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 肉離れ（下腿三頭筋）					
10	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 足関節外側側副靭帯損傷					
11	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 総復習1					
12	付属整骨院実習	軟部組織損傷の徒手検査法 総復習2					
13	付属整骨院実習	整骨院の物理療法の体験実技・腰部治療					
14	付属整骨院実習	牽引療法体験実習・頸部治療					
15	付属整骨院実習	医療面接の実際 1					
16	付属整骨院実習	医療面接の実際 2					
17	付属整骨院実習	医療面接の実際 3					
18	付属整骨院実習	手技療法の実際（軽擦法・揉捏法）					
19	付属整骨院実習	手技療法の実際（叩打法・圧迫法）					
20	付属整骨院実習	治療体操（腰痛体操・コッドマン体操・バージャ体操）					
21	付属整骨院実習	骨折患者の診察、治療シミュレーション					
22	付属整骨院実習	脱臼患者の診察、治療シミュレーション					
23	付属整骨院実習	捻挫患者の診察、治療シミュレーション					

科目名 【英】	柔整医学演習 1 Medical Practice of Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	後期	曜日	水曜日	時限	1.2

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する。 また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく。
到達目標	国家試験において担当範囲の必修80%一般60%の正答率を全員が獲得できるようにする。 また他の授業に対しても目的を持って勉強が出来るようにする。

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備考	授業では全員が傾聴できるようにする

成績評価	期末筆記試験70点 小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	5/13	内分泌解剖生理 1	出題数の多い内分泌について総論を理解する。
2	5/20	内分泌解剖生理 2	下垂体のホルモンを理解する。
3	5/27	内分泌解剖生理 3	頸部のホルモンを理解する。
4	6/3	内分泌解剖生理 4	胸腹部のホルモンを理解する。
5	6/10	内分泌解剖生理 5	生殖器ホルモンを理解する。内分泌解剖生理の小テスト
6	6/17	内分泌疾患 1	解剖生理を元にした内分泌の疾患を理解する。
7	6/24	内分泌疾患 2	頭部から胸部にかけた内分泌疾患を理解する。
8	7/1	内分泌疾患 3	腹部以降の内分泌疾患を理解する。内分泌疾患小テスト
9	7/8	消化器解剖生理	消化器の役割、大まかな働きを理解する。口腔について理解する。
10	7/15	消化器解剖生理	食道から横隔膜について解剖の詳細と働きについて理解する。
11	7/22	消化器解剖生理	胃・腹膜の解剖、消化吸収について理解する。また前回までの内容理解のため小テストを実施
12	8/1	消化器解剖生理	小腸の解剖について区別できるようになり消化吸収について理解する。
13	7/29	消化器解剖生理	大腸の解剖を理解する。消化器全体の流れを理解する。消化器全体の復習小テストを実施
14	8/5	試験対策	前期試験末の試験について再復習
15	8/26	試験対策	前期末試験の解答解説
16	9/1	前期まとめ	前期実施した授業内容のポイント再確認

科目名 【英】	柔整医学演習 2 Medical Practice of Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	前期	曜日	土曜日	時限	3.4

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復学理論の国家試験出題傾向をふまえ、骨折・脱臼各論の発生機序、特徴を学ぶ。卒後に必要な知識を学ぶ。
到達目標	国家試験合格レベルまで到達する。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学理論編 改定第6版』（南江堂）
留意点 備考	副教材として解剖学を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	頭部顔面部（神経損傷含む）	頭部外傷【頭蓋内出血・頭蓋骨骨折】 頭蓋内出血の注意点、頭蓋骨骨折の所見について説明できる。
2	頭部顔面部（神経損傷含む）	頭部外傷【鼻骨骨折・上顎骨骨折・下顎骨骨折】 鼻骨骨折、眼窩底骨折の所見について説明できる。
3	頭部顔面部（神経損傷含む）	頭部外傷【頭部および顔面部の軟部組織損傷】、末梢神経損傷 末梢神経損傷の分類について説明できる。
4	脊柱、胸部	脊柱・胸部外傷【頸椎・胸椎・腰椎骨折】 頸椎圧迫骨折、胸椎椎体圧迫骨折、胸腰椎移行部椎体圧迫骨折について説明できる。
5	肩甲骨骨折	肩甲骨骨折【体部骨折、上角・下角骨折】、肩関節脱臼 発生機序、特徴について説明できる。
6	前腕骨幹部骨折	前腕両骨骨幹部骨折【モンテギア骨折含む】 発生機序、後遺症について説明できる。
7	手根骨骨折	手根骨骨折【舟状骨・有鉤骨骨折】 発生機序、特徴について説明できる。
8	手指骨骨折	手指骨骨折【基節骨・中節骨・末節骨】 発生機序、特徴について説明できる。
9	骨盤骨骨折	骨盤骨骨折【裂離骨折、デュベルニー骨折、マルゲーニュ骨折】 発生機序、特徴について説明できる。
10	大腿骨近位端部骨折	大腿骨近位端部骨折【内側骨折、外側骨折】 発生機序、特徴について説明できる。
11	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨遠位端部【大腿骨上1/3部、大腿骨中1/3部骨折】 発生機序、特徴について説明できる。
12	大腿骨遠位端部骨折	大腿骨遠位端部【顆上骨折】 発生機序、特徴について説明できる。
13	膝関節脱臼	膝関節脱臼【外傷性膝関節脱臼】 発生機序、分類、特徴について説明できる。
14	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折【分離膝蓋骨の鑑別】 発生機序、分類、特徴について説明できる。
15	足部骨折、脱臼	足部骨折【疲労骨折】、足部脱臼【第1趾背側脱臼】 発生機序、特徴について説明できる。

科目名 【英】	柔整医学演習 3 Medical Practice of Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	木曜日	時 限	1.2

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	一般臨床総論である打診、聴診、触診などを、解剖生理学を交えながら理解する。
到達目標	一般臨床医学（総論）を各論と併せながら、国家試験レベルまで到達させる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『一般臨床医学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント
留意点 備 考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	打診	鼓音と濁音の違いを理解し、各疾患で説明ができる。
2	聴診	閉塞性・拘束性換気障害の違いを理解することができる。
3	触診 1	触診法、筋トーンス亢進（痙直・硬直）の違いを知り説明ができる。
4	触診 2	骨・関節・胸腹部・リンパ節の触診を理解し、腹部分画での主要臓器の位置が説明できる。
5	生命徴候 1	体温、血圧について、健常者と傷病者の数値の違いを知り説明ができる。
6	生命徴候 2	脈拍、呼吸について、健常者と傷病者の数値の違いを知り説明ができる。
7	感覚検査	感覚の種類（分類）を覚え、説明することができる。
8	反射検査 1	反射の種類（分類）、病的反射、クローヌス、錐体路障害を知り説明ができる。
9	反射検査 2	反射検査実技を通して反射の反応を実感し、また錐体路障害と錐体外路障害の症状の違いを説明ができる。
10	代表的な臨床症状 1	出血傾向の病態生理を理解し説明できる。
11	代表的な臨床症状 2	発熱、リンパ節腫脹の病態生理を理解し説明できる。
12	代表的な臨床症状 3	意識障害、チアノーゼ、関節痛の病態生理を理解し説明できる。
13	代表的な臨床症状 4	浮腫、肥満、やせの病態生理を理解し説明できる。
14	視診	各疾患名および所見を組合せて覚える。
15	試験解説	前期試験解説

科目名 【英】	柔整医学演習 4 Medical Practice of Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	前期	曜日	月曜日	時限	3.4

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務に従事する
------	-------	-------	-----------------------

学習内容	現代医学的な観点から、外科学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	外科学 副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備考	

成績評価	試験90%小テスト10%を加味する
------	-------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔整医学演習 4	外科学とは 外科学の歴史を学び現代との相違点を理解し説明を行う事が出来る	
2	柔整医学演習 4	損傷 損傷の分類 損傷の治癒 交通事故外傷 特殊な損傷 熱傷を理解し説明する事が出来る	
3	柔整医学演習 4	救急処置 熱傷の合併症を理解 気道熱傷 その他の損傷を理解し 説明する事が出来る	
4	柔整医学演習 4	炎症と外科感染症 感染発症のメカニズム 静脈瘤 梅毒 真菌症 動物の噛み傷を理解し説明できる	
5	柔整医学演習 4	腫瘍 概念 発がん 分類 良性 悪性 上皮性 非上皮性癌を理解し説明する事が出来る	
6	柔整医学演習 4	ショック 心臓性 血液分布異常性 閉塞性ショック 対処法を理解し説明できる	
7	柔整医学演習 4	輸血と輸液 輸血 輸血の適用 一般輸血 高カロリー輸液について理解し説明できる	
8	柔整医学演習 4	消毒と滅菌 主な消毒薬 皮膚消毒 機械の消毒 エチレンガス滅菌について説明できる	
9	柔整医学演習 4	手術 手術の分類 各種手術法 皮膚切開 止血 結紮について理解し説明できる	
10	柔整医学演習 4	麻酔 概要 全身麻酔 局所麻酔 気管挿管 神経ブロック 緩和ケアについて理解説明できる	
11	柔整医学演習 4	移植と免疫 同系移植 同種移植 臓器の保存について理解し説明できる	
12	柔整医学演習 4	出血と止血 出血の分類 出血血管の分類 原因について理解し説明できる	
13	柔整医学演習 4	鼻出血 喀血 吐血 腹腔内出血 器械的止血 物理的止血 化学的止血について理解し説明できる	
14	柔整医学演習 4	新派蘇生法 心臓マッサージ 人工呼吸 AEDNについて理解し説明できる	
15	柔整医学演習 4	テストの解説をし相互理解を深め 国家試験合格に向けて理解する	
16			

科目名 【英】	社会保障論 Social Security			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単位	1
学年	3	学期	後期	曜日	水曜日	時限	3.4

担当教員	高田 昌辰	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	社会保障制度と職業倫理
到達目標	社会保障制度との基本的な知識を身につける

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備考	

成績評価	
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	社会保障制度	保険診療と医療保険財政	
2	社会保障制度	診療報酬制度	
3	職業倫理 1	医療従事者の職業倫理	
4	職業倫理 2	柔整師に必要な基本的な倫理観	
5	職業倫理 3	柔整師の社会的責任と対応	
6	職業倫理 4	医療における情報と責任	
7	職業倫理 5	社会保障制度と職業倫理のまとめ	
8	職業倫理 6	社会保障制度と職業倫理のまとめ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

科目名 【英】	柔整応用鑑別学 Judo Therapy Differential Diagnosis Advanced			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3年	学期	後期	曜日	木曜日	時限	3.4

担当教員	奈良 俊二	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	柔道整復術が適用される疾患の鑑別
到達目標	脱臼範囲の国家試験範囲を習得する

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書
留意点 備考	

成績評価	実技100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔整応用鑑別学	学習内容の注意点	
2	柔道整復術の適否1	患者に対する判断	
3	柔道整復術の適否2	施術の注意点	
4	柔道整復術の適否3	患者の観察	
5	類似疾患1	内臓疾患の鑑別1	
6	類似疾患2	内臓疾患の鑑別2	
7	類似疾患3	内臓疾患の鑑別3	
8	類似疾患4	内臓疾患の鑑別4	
9	類似疾患5	内臓疾患の鑑別5	
10	神経、血管損傷1	血流障害と神経損傷に対する対応1	
11	神経、血管損傷2	血流障害と神経損傷に対する対応2	
12	神経、血管損傷3	血流障害と神経損傷に対する対応3	
13	画像診断1	単純レントゲンの見方	
14	画像診断2	MRIの見方	
15	復習	総復習	

科目名 【英】	柔整医学演習 5 Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	後期	曜日	水曜日	時限	3.4

担当教員	山田 靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務
------	-------	-------	---------------------

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する。 また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく。
到達目標	国家試験において担当範囲の必修80%一般60%の正答率を全員が獲得できるようにする。 また他の授業に対しても目的を持って勉強が出来るようにする。

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備考	授業では全員が傾聴できるようにする

成績評価	期末筆記試験70点 小テスト30点（授業内）
------	------------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	5/13	肝臓胆嚢膵臓	消化に関わる実質性臓器の働きについて理解する。
2	5/20	肝臓の解剖生理	肝臓の詳細な構造、働きについて全身での役割について理解する。
3	5/27	胆嚢膵臓	胆嚢膵臓の構造、働きを区別できるようにする。肝胆膵の解剖生理理解度を小テストで計る
4	6/3	消化器疾患	消化器疾患を理解するため解剖生理を簡単に振り返り疾患の大枠を捉える。
5	6/10	消化器疾患	口腔から小腸までの疾患について解剖生理を理解しつつ覚える。
6	6/17	消化器疾患	小腸から肛門にかけての疾患および自己免疫疾患についても理解する。消化管疾患の小テスト
7	6/24	消化器疾患	肝臓胆嚢膵臓の主な疾患について理解する。肝胆膵の小テストを実施する
8	7/1	泌尿器解剖生理 1	泌尿器の構造仕組みを理解する。
9	7/8	泌尿器解剖生理 2	泌尿器全体像を把握し理解する。
10	7/15	泌尿器解剖生理 3	膨満嚢から尿道まで男女別に区別し理解する。
11	7/22	泌尿器疾患 1	腎疾患における特徴を知り理解する。泌尿器解剖生理の小テスト
12	8/1	泌尿器疾患 2	腎臓実質における疾患を理解する。
13	7/29	泌尿器疾患 3	腎以降の泌尿器疾患を理解する。
14	8/5	試験対策	後期試験末の試験について再復習
15	8/26	試験対策	後期末試験の解答解説

科目名 【英】	柔整医学演習 6 Medical Practice of Judo Therapy 6			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	火曜日	時 限	3.4

担当教員	東 正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院にて実務経験を積む				
------	------	-------	----------------------------------	--	--	--	--

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。						
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。						

準備学習 時間外学習							
使用教材	学校指定教科書 生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）						
留意点 備 考							

成績評価	学期末試験100%						
------	-----------	--	--	--	--	--	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	生理解剖学総論・内分泌	後期の授業計画について。前期内容の確認。内分泌系の機能と構造についてを理解を深める。
2	内分泌	個々のホルモンの働きを再確認して理解する。
3	生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。
4	生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。
5	骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。
6	循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。
7	循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。
8	呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。
9	呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。
10	尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。
11	尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。
12	消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。
13	消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。
14	代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。
15	総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。

科目名 【英】	柔整医学演習 7			必修/選択	必修	授業形式	座学
				総時間数	22.5	単 位	
学 年	3	学 期	後期	曜 日	月曜日	時 限	3.4

担当教員	松田泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う
------	------	-------	---------------------

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	病態細胞を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学との関連性を把握する
使用教材	病理学 解剖学 生理学
留意点 備考	

成績評価	試験90% 小テスト10%程度を加味する
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	柔整医学演習5	病理学とは 【方法、研究試験による分類診察方法】 病理学に対する基本的な知識と方法に説明が出来る	
2	柔整医学演習5	疾病の一般【疾病の意義と分類疾病の分類病変と症候】 疾病の分類や病気の状態を説明できる	
3	柔整医学演習5	細胞障害【退行性病変、代謝障害、萎縮、変性、壊死】 細胞の異常や分類を説明できる	
4	柔整医学演習5	代謝障害と疾病【尿酸代謝異常カルシウム代謝異常、糖尿病、老化、壊死】 代謝異常、糖尿病、黄疸などの説明が出来る	
5	柔整医学演習5	アポトーシスと死【死の定義、死の判定、死後の変化】 アポトーシスと死の違いを説明できる	
6	柔整医学演習5	循環障害【血液の循環障害、充血、うっ血虚血、出血血栓症】 血液の循環障害やうっ血、虚血について説明できる	
7	柔整医学演習5	循環障害【塞栓症、梗塞、浮腫、脱水症】 梗塞の種類浮腫の成因脱水症の説明が出来る	
8	柔整医学演習5	循環障害【高血圧症、高血圧症の分類】 高血圧の病態生理を説明できる	
9	柔整医学演習5	進行性病変【肥大、過形成、再生、化生】 肥大過形成再生化生の分類について説明できるレベル	
10	柔整医学演習5	進行性病変【創傷治癒、移植、脳死の判定基準】 創傷の病態生理脳死の判断基準について説明できる	
11	柔整医学演習5	炎症【炎症の分類炎症の原因炎症の形態による分類】 炎症の病理解剖と原因分類を説明できる	
12	柔整医学演習5	免疫異常アレルギー【免疫の仕組み、免疫不全、後天性免疫不全症候群】 免疫の仕組みと抗原、抗体、先天性後天性の免疫不全の説明が出来る	
13	柔整医学演習5	免疫異常アレルギー【自己免疫疾患、アレルギー】 自己免疫疾患とアレルギー反応の分類、病態生理について説明できる	
14	柔整医学演習5	腫瘍【腫瘍の定義、腫瘍細胞、腫瘍の組織構造生体への影響、発がんの原因腫瘍の分類】 腫瘍について病態生理、解剖学的診断、分類の説明が出来る	
15	柔整医学演習5	先天性疾患【先天性異常、遺伝子異常、染色体異常、奇形の原因、奇形成立の時期】 先天性疾患の説明染色体異常の説明が出来る	
16	柔整医学演習5	病因【病因の一般、内因、外因、遺伝、ストレス】 病因の外因、内因について説明が出来る	

科目名 【英】	柔整医学演習8 Medical Practice of Judo Therapy 8			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	後期	曜日	月曜日	時限	3.4

担当教員	姫 将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012-2014接骨院で実務経験を積む
------	------	-------	---------------------------------------

学習内容	柔道整復師において必要なリハビリテーション医学の知識を修得する。
到達目標	国家試験レベルの問題を6割正解できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学、生理学、運動学の復習をおこなうことを勧める。
使用教材	PC / 配布プリント
留意点 備考	

成績評価	後期末試験（筆記 100%）で評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	リハ医学の概念 1	リハビリテーション医学概論【概念・障害レベル】 障害分類について説明できる。	
2	リハ医学の概念 2	リハビリテーション医学概論【障害レベル・アプローチ・チーム医療】 障害分類に対応するアプローチについて説明できる。	
3	基礎医学	リハビリテーションに関する基礎医学【障害学・神経解剖・神経生理・神経損傷】 末梢神経麻痺・中枢神経麻痺の違いについて説明できる。	
4	評価と診断 1	評価と診断【MMT・筋力増強法】 MMTについて説明できる。	
5	評価と診断 2	評価と診断【運動失調】 運動調節機構の概要について説明できる。	
6	評価と診断 3	評価と診断【ADL】 ADLと評価法について説明できる。	
7	治療学 1	治療【理学療法・作業療法】 理学療法と作業療法の違いについて説明できる。	
8	治療学 2	治療【装具療法】 補装具の名称と適応について説明できる。	
9	リハビリの実際 1	各論【脳卒中①】 脳卒中の病態について説明できる。	
10	リハビリの実際 2	各論【脳卒中②】 急性期と回復期のリハビリテーションについて説明できる。	
11	リハビリの実際 3	各論【脊髄損傷】 損傷高位による機能予後を説明できる。	
12	リハビリの実際 4	各論【脳性麻痺】 脳性麻痺の3型を説明できる。	
13	国家試験対策 1	問題演習 国家試験問題を60%正答できる。	
14	国家試験対策 2	問題演習 国家試験問題を60%正答できる。	
15	まとめ	総復習 国家試験についての重要範囲について説明できる。	

科目名 【英】	柔整医学演習 9 Medical Practice of Judo Therapy 9			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	後期	曜日	水曜日	時限	1, 2

担当教員	林 宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月 鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう
------	------	-------	-----------------------------------

学習内容	国家試験の必修問題に出題される実技範囲について学ぶ
到達目標	国家試験の必修問題を解くことができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』『柔道整復学 実技編』 配布プリント
留意点 備考	柔道整復学理論編と実技編の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	定型的鎖骨骨折	定型的鎖骨骨折について説明することができる
2	上腕骨外科頸外転型骨折	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
3	上腕骨骨幹部三角筋附着部より遠位骨折	上腕骨骨幹部三角筋附着部より遠位骨折について説明することができる
4	コーレス骨折	コーレス骨折について説明することができる
5	第5中手骨頸部骨折	第5中手骨頸部骨折について説明することができる
6	肋骨骨折	肋骨骨折について説明することができる
7	肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
8	肩関節烏口下脱臼	肩関節烏口下脱臼について説明することができる
9	肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼について説明することができる
10	肘内障	肘内障について説明することができる
11	示指PIP関節背側脱臼	示指PIP関節背側脱臼について説明することができる
12	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷について説明することができる
13	大腿部打撲、肉離れ	大腿部打撲、肉離れについて説明することができる
14	膝関節軟部組織損傷	膝関節軟部組織損傷について説明することができる
15	足関節軟部組織損傷	足関節軟部組織損傷について説明することができる

科目名 【英】	柔整医学演習 10 Medical Practice of Judo Therapy 10			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	後期	曜日	木	時限	1.2

担当教員	岩本 暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月 接骨院に所属し、施術をおこなう。
------	-------	-------	----------------------------------

学習内容	柔道整復学各論を、総論の復習を交えながら理解する。
到達目標	国家試験合格レベルに到達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	柔道整復学 1	頭部・顔面部の軟部組織損傷 顎関節症について説明することができる。
2	柔道整復学 2	頸部の軟部組織損傷 むちうち損傷・胸郭出口症候群について説明することができる。
3	柔道整復学 3	体幹の軟部組織損傷 胸背部・腰部損傷について説明することができる。
4	柔道整復学 4	肩関節部の軟部組織損傷 各疾患を鑑別することができる。
5	柔道整復学 5	肘関節部の軟部組織損傷 各疾患を鑑別することができる。
6	柔道整復学 6	前腕部の軟部組織損傷 橈骨・尺骨・正中神経を鑑別することができる。
7	柔道整復学 7	手関節部の軟部組織損傷 各疾患を鑑別することができる。
8	柔道整復学 8	手部・指部の軟部組織損傷 解剖が理解でき、変性疾患および変形について説明することができる。
9	柔道整復学 9	股関節部・大腿部の軟部組織損傷 各疾患を鑑別することができる。
10	柔道整復学 10	膝関節部の軟部組織損傷 各疾患を鑑別することができる。
11	柔道整復学 11	下腿部の軟部組織損傷 各疾患を鑑別することができる。
12	柔道整復学 12	足関節部の軟部組織損傷 各疾患を鑑別することができる。
13	柔道整復学 13	足・趾部の軟部組織損傷 各疾患を鑑別することができる。
14	柔道整復学 14	総復習
15	試験解説	後期末試験解説

科目名 【英】	柔整医学演習 11 Medical Practice of Judo Thrapy 11			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	3.4

担当教員	服部 博幸	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	上肢および下肢の骨折及び脱臼について部位ごとに学ぶ。
到達目標	臨床の場で使えるよう受傷原因から総合的に外傷を判断できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備 考	欠席された場合、次の授業に差し支えないよう配布プリントは事前にとり来てください。

成績評価	筆記試験結果（100%）を元に評価する。
------	----------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		柔道整復学演習 1	練習問題とそのフィードバック
2		柔道整復学演習 2	手・手指部の骨折・脱臼1
3		柔道整復学演習 3	手・手指部の骨折・脱臼2
4		柔道整復学演習 4	手・手指部の骨折・脱臼3
5		柔道整復学演習 5	骨盤・下肢の骨折・脱臼1
6		柔道整復学演習 6	骨盤・下肢の骨折・脱臼2
7		柔道整復学演習 7	骨盤・下肢の骨折・脱臼3
8		柔道整復学演習 8	骨盤・下肢の骨折・脱臼4
9		柔道整復学演習 9	上肢の神経損傷
10		柔道整復学演習10	上肢の骨折 1
11		柔道整復学演習11	上肢の脱臼 1
12		柔道整復学演習12	上肢の骨折2
13		柔道整復学演習13	上肢の脱臼 2
14		柔道整復学演習14	総論
15		柔道整復学演習15	総合演習
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 1 2 Medical Practice of Judo Therapy 12			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単 位	2
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水曜日	時 限	1. 2

担当教員	水谷 遼香	実務者経験	鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。
------	-------	-------	---------------------------------------

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習しておく。
使用教材	教科書『生理学』（南江堂）
留意点 備考	

成績評価	筆記100%
------	--------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		総論	細胞について理解し、説明することが出来るようになる。
2		体液、血液	体積成分、組成、赤血球について理解し、説明することが出来るようになる。
3		血液、心臓	血漿蛋白質、凝固、心筋について理解し、説明することが出来るようになる。
4		循環、呼吸	心電図、血圧、酸素運搬について理解し、説明することが出来るようになる。
5		呼吸、消化	二酸化炭素運搬、スパイロメーター、消化管ホルモンについて理解し、説明することが出来るようになる。
6		消化	肝臓、脂肪の吸収について理解し、説明することが出来るようになる。
7		栄養代謝	ビタミン、ATP、尿中窒素について理解し、説明することが出来るようになる。
8		体温	放熱、発汗、汗腺、視床下部などについて理解し、説明することが出来るようになる。
9		腎臓	RAA、濾過について理解し、説明することが出来るようになる。
10		内分泌	副腎皮質ホルモン、視床下部、下垂体などについて理解し、説明することが出来るようになる。
11		生殖	生殖器の発生、カルシウム、コラーゲンについて理解し、説明することが出来るようになる。
12		生殖	性周期、甲状腺について理解し、説明することが出来るようになる。
13		骨、神経	カルシウム代謝、伝導、伝達、膜電位、自律神経
14		神経、筋	腫脹、筋収縮などについて理解し、説明することが出来るようになる。
15		筋、感覚	筋とATP、心筋、感覚器、痛みについて理解し、説明することが出来るようになる。

科目名 【英】	柔整医学演習13 Medical Practice of Judo Therapy 13			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	後期	曜日	木曜日	時限	1.2

担当教員	岩田 早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月 病院に所属 外来の物理療法をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	国家試験に必要な知識を取得し、また卒後に役立つ知識を幅広く取得する。
到達目標	国家試験で80%の問題を解くことができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第2版（医歯薬出版）、生理学 改定第3版（南江堂）、配布プリント
留意点 備考	授業終了後に講義内容の問題を網羅しておく。

成績評価	期末試験100%（筆記）
------	--------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	体温とその調節	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
2	泌尿器系（解剖）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
3	尿の生成と排泄	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
4	尿の生成と排泄	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
5	生殖器（解剖学）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
6	生殖器（解剖学）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
7	生殖器（生理学）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
8	生殖器（生理学）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
9	解剖生理 小テスト	体温・泌尿器・生殖器の理解度を確認。 国家試験に準じたオリジナル問題で80%を取ることができる。	
10	消化器系（解剖）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
11	消化と吸収	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
12	消化と吸収	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
13	栄養と代謝	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
14	感覚器（解剖）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	
15	感覚器（生理）	履修範囲の出題傾向、出題内容の理解。 過去問を解き、80%を取ることができる。	

科目名 【英】	柔整医学演習14 Medical Practice of Judo Therapy			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	後期	曜日	木	時限	3.4

担当教員	井上 亜久吏	実務者経験	2015/4~2020/3 接骨院にて勤務
------	--------	-------	-----------------------

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に関しての幅広い内容を学ぶ。
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC 配布資料 教科書【一般臨床医学 解剖学 生理学 病理学（南江堂）】
留意点 備考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1	神経系疾患 1	脳卒中について説明することができる	
2	神経系疾患 2	パーキンソン病について説明することができる	
3	神経系疾患 3	伝導路疾患について説明することができる	
4	神経系疾患 4	筋萎縮性側索硬化症について説明することができる	
5	神経系疾患 5	脳神経が障害される疾患について説明できる	
6	筋系疾患 1	進行性筋ジストロフィーについて説明することができる	
7	筋系疾患 2	重傷筋無力症について説明することができる	
8	循環器疾患 1	虚血性心疾患について説明することができる	
9	循環器疾患 2	心臓弁膜症について説明することができる	
10	循環器疾患 3	先天性心疾患について説明することができる	
11	呼吸器疾患 1	慢性閉塞性肺疾患について説明することができる	
12	呼吸器疾患 2	肺炎、肺癌について説明することができる	
13	血液疾患 1	貧血疾患について説明することができる	
14	血液疾患 2	汎血球減少症について説明することができる	
15	総まとめ	全ての疾患の総ざらいを行い国家試験に対応できる説明力をつける	

科目名 【英】	柔整医学演習16 Medical Practice of Judo Therapy			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単位	2
学年	3	学期	後期	曜日	金曜日	時限	3.4

担当教員	竹田 英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月 整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月 The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。
------	-------	-------	---

学習内容	上肢や下肢の軟部組織損傷の発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	p

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学 理論編』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。
------	-------------------

授業計画 【テーマ・内容・目標】		
1	ガイダンス・ 肩の軟部組織損傷	肩の鑑別疾患(腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、五十肩)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
2	膝の軟部組織損傷	膝の鑑別疾患(内側半月板損傷、内側側副靭帯損傷、前十字靭帯損傷)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
3	足の軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(前距腓靭帯損傷、二分靭帯損傷)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
4	まとめ	肩・膝・足部の疾患まとめ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
5	肘の軟部組織損傷	肘の鑑別疾患(野球肘・上腕骨外側上顆炎)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
6	手関節の軟部組織損傷	手関節の鑑別疾患(三角線維軟骨複合体損傷、キーンベック病)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
7	指の軟部組織損傷	指の鑑別疾患(ドケルバン病、ロッキングフィンガー)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
8	指の軟部組織損傷	指の鑑別疾患(スワンネック変形、ボタン穴変形)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
9	股の軟部組織損傷	股の鑑別疾患(ペルテス病、大腿骨頭すべり症、単純性股関節炎)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
10	股の軟部組織損傷	股の鑑別疾患(大腿骨頭壊死・股関節拘縮)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
11	下腿の軟部組織損傷	下腿の鑑別疾患(コンパートメント症候群、アキレス腱断裂)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
12	足部の軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(シンスプリント・有痛性三角骨障害、有痛性外脛骨障害)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
13	足部の軟部組織損傷	足部の鑑別疾患(第一キーラー病、フライバーグ病)を学ぶ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
14	まとめ	股・下腿・足部の疾患まとめ。 主要な疾患の特徴や病態が説明をして鑑別ができる
15	定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。

科目名 【英】	柔整医学部演習 17 Medical Practice of Judo Thrapy 17			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単 位	1
学 年	3	学 期	後期	曜 日	水	時 限	3.4

担当教員	高田 昌辰	実務者経験	1998年4月～2019年3月 整骨院を開業。 整骨院にて柔道整復業務をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	認定実技審査にむけて
到達目標	鎖骨骨折、外科頸骨折、コーレス骨折、足関節損傷の整復及び固定

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	
------	--

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		認定実技に向けて	鎖骨骨折の整復、固定実技
2		認定実技に向けて	上腕骨骨折骨幹部骨折の固定実技
3		認定実技に向けて	コーレス骨折の整復、固定
4		認定実技に向けて	足関節損傷の固定実技
5		認定実技に向けて	認定実技に向けて総復習
6		社会保障制度	社会保障とは
7		社会保障制度	公的年金、介護保険の意義と仕組み
8		社会保障制度	医療保険の目的と意義
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

科目名 【英】	柔整医学演習 15 Medical Practice of Judo Therapy 15			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単位	1
学年	3	学期	前期	曜日	金曜日	時限	3.4

担当教員	岩崎 英明	実務者経験	1997年～2018年 付属整骨院に所属 柔道整復師として従事
------	-------	-------	------------------------------------

学習内容	柔道整復師の扱う骨折、脱臼などの外傷、障害に対しての臨床的な整復法、固定法などを学ぶ。
到達目標	実習を通して骨の各部位の名称、特徴、筋の起始・停止・支配神経・作用、それらにおける損傷、傷害について説明できるようにする。

準備学習 時間外学習	配布したプリントに筋名、起始、停止、支配神経、作用を記載する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『運動学』（医歯薬）、プリント配布
留意点 備考	

成績評価	期末試験100%
------	----------

授業計画 【テーマ・内容・目標】			
1		骨学復習	骨の構造、関節の構造
2		骨、筋、損傷 1	脊柱、胸部、頭蓋骨の各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
3		骨、筋、損傷 2	頭蓋骨、顎関節の運動（骨、筋など）、上肢（肩甲骨、上腕骨のと筋）の運動の復習。各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
4		骨、筋、損傷 3	肘関節（橈骨、尺骨）の運動の復習。各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
5		骨、筋、損傷 4	手関節、手部の運動の復習。各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
6		骨、筋、損傷 5	手関節の筋、母指球筋、小指球筋を理解し、触診、説明することができるようになる。
7		骨、筋、損傷 6	股関節（骨盤骨、大腿骨）の運動の復習。各部位名称、特徴、傷害について理解し、触診、説明することができるようになる。
8		中間評価	頭蓋骨、上肢の骨、筋、運動について評価する。
9		骨、筋、損傷 7	股関節の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。
10		骨、筋、損傷 8	膝関節の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。
11		骨、筋、損傷 9	足関節の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。
12		骨、筋、損傷 10	体幹と脊柱の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。
13		骨、筋、損傷 11	胸椎と胸郭の運動に関与する筋の起始、停止、支配神経を作用ごとに理解し、傷害においても説明することができるようになる。
14		最終評価	下肢の運動、傷害について評価する。
15		身体運動と力学	てこ、運動の法則、運動の面と軸などを理解し、説明できるようにする。